

「金沢市国際交流ミライアクション 骨子（案）」についての パブリックコメントでのご意見の概要と金沢市の考え方（回答）

1. 募集期間 令和4年12月19日（月）～令和5年1月17日（火）
2. 提出方法 メール、郵便、ファクシミリ又は窓口へ提出
3. 意見数 意見者数8人 24件

No	ご意見の概要	金沢市の考え方
1. 「＜基本方針Ⅰ＞金沢の文化やネットワークを生かした国際交流」に関するご意見		
1	金沢市の国際交流において、姉妹都市等との交流は長年にわたる実績のある大きな資産であり、行政や議会のみならず、民間団体や市民個人も担ってきたものである。今後さらに発展させてほしい。	「基本方針Ⅰ」及び「施策の方向性」に沿って、金沢の文化や姉妹都市などのネットワークを生かした国際交流を民間団体や市民の方々と連携しながら進めるとともに、デジタル技術の活用にも取り組んでいきます。
2	金沢市の特性を活かした姉妹・友好都市との交流はよりいっそう大切になると感じる。周年イベントに限らず平素から世界各国の姉妹都市と友好を深めていく必要がある。	
3	国際交流においても、まちの特色を生かし、他都市との差別化を図ることは必要だと考える。よって、文化、芸術、工芸、芸能、食などの金沢の強みを生かした国際交流を実施してほしい。	
4	ウィズコロナにおいても、オンライン交流は引き続き必要であり、このような手法は、見知らぬ人と会うことをためらっていた人たちが交流へ参加することを促し、国際親善の裾野を広げることへの期待があり、対面とオンラインを併用した新たな国際交流を展開する必要がある。	

5	金沢駅から片町のメインストリート沿線に、海外の人でも音楽の発表が気軽にできるような市民団体が主催するライブコンサートなどにも使える 50～100 人程度収容の小規模のホールがあればよい。	ご意見として承ります。
2. 「＜基本方針Ⅱ＞日本人・外国人住民双方が暮らしやすい地域づくり」に関するご意見		
6	「基本方針Ⅱ」の具体的施策に、「やさしい日本語」を推進していくような文章があってもよいのではないかと。	外国人住民の国籍が多様化する中で、多言語での対応に加えて、「やさしい日本語」を活用することは大切であると考えており、計画の中に反映していきます。
7	在住外国人が増え、国籍も多様化しており、大切な情報を外国人の方にしっかり伝えていくため「やさしい日本語」の活用をプランに入れてほしい。	
8	外国人住民が増加する状況に鑑みて、外国人や外国人の子どもに対する日本語学習支援が必要である。ボランティア団体と連携し、役割分担をしながら充実させてほしい。	骨子（案）で、計画策定の背景に「日本語教育推進法」の施行を取り上げているとおり、外国人住民に対する日本語・学習支援は大切であり、「基本方針Ⅱ」に沿って、地域団体、国際交流団体・ボランティア・NPO法人等と協力して地域における日本語・学習支援に取り組んでいきます。
9	日本語教育推進法では、「日本語に通じない外国人及び日本の国籍を有する者」を日本語教育の対象としており、外国人児童生徒等に加えて、日本語教育を受けることを希望する外国人等に対し、その機会を確保できるよう、行政・国際交流団体・市民ボランティア・NPO等の職員等が協力して日本語教育を推進してほしい。	

10	「金沢に定住したい」という外国人の声が74%ある。「基本方針Ⅱ」の成果指標・目標指標にもなりうる重要な項目だと思うので、この数値を向上させるため、具体的施策の立案・実施に力を入れてほしい。	「基本方針Ⅱ」に沿って、外国人住民の居住環境整備や多文化共生の推進に向けて施策の実施に取り組んでいきます。
11	金沢でも在住外国人で出産育児をする人が増えている。「基本方針Ⅱ」の主な具体的な施策の中に安心して子育てができる体制整備と支援等があればよい。	「基本方針Ⅱ」に沿って、子育て情報の多言語化や外国人子育て応援通訳ボランティア派遣などを行うこととしており、こうした取り組みを通じて外国人住民が安心して子育てできる環境の整備を図っていきます。
12	留学生を対象に実施してきた金沢の文化体験、市民との交流の機会、生活ガイダンス等を技能実習生も対象として実施してほしい。また、金沢の大学を卒業した留学生の地元企業での就職を促進することも必要である。	「基本方針Ⅰ」に沿って、日本人住民と外国人住民との交流機会の拡大を図っていきます。技能実習生の生活指導は、監理団体や受入先等が担うものと考えていますが、「基本方針Ⅱ」に沿って、日本の生活になじめるよう、地域や国際交流団体等と連携して取り組んでいきます。「基本方針Ⅲ」に沿って、地域の国際化を担う人材を育成するため、留学生等を対象とする人材育成セミナーなどを行うことで、地元の大学を卒業した留学生の定着を図っていきます。
13	外国人から、日本人との交流機会拡大や外国語対応への希望が上がっている。国際化が進んだと思われる今でも同様の意見があることを考えると、永遠のテーマと言える。これからも引き続き重要な課題と捉え、「基本方針Ⅱ」の実施に力を入れてほしい。	日本人住民と外国人住民との交流による相互理解の推進、通訳サービスの充実化、行政情報の多言語化や外国人キーパーソンとの連携などにも取り組み、基本方針Ⅱの日本人・外国人住民双方が暮らしやすい地域づくりに取り組んでいきます。
14	外国人から、日本人との交流機会の拡大の希望、日常の相談先が知人・友人であること、団体からは様々な主体と行政等の連携の重要性などが指摘されている。国際交流には、日本人と外国人、行政と団体とボランティアなど様々なネットワークを構築し、それを活用することが重要である。	骨子（案）では、本計画の推進体制を、各課・関係機関と連携し総合的かつ効率的に施策を推進することとしており、市民、国際交流団体、地域、教育機関など様々な方々と連携しながら、計画を進めていきたいと考えています。

15	街中にある案内板や屋内にある注意書きなどの外国語表示は、ネイティブに確認しているのかどうか。おかしい外国語になっていないか見直した方が良く思うことがある。	本市では、令和3年3月に「多言語表記ガイドライン」を定め、ホームページに公開しており、活用していただけるよう周知に努めていきたい。
16	外国にルーツを持つ青少年の増加を実感しており、金沢市の国際化や健全な多文化共生社会の実現のため、日本人市民の異文化理解を促進すべきである。	「基本方針Ⅱ」では、「多文化共生の推進」を施策の方向性としており、市民の方々に異文化への理解を深めていただくため、多文化共生イベントなどに取り組んでいきます。
17	「基本方針Ⅱ」の主な具体的な施策の中に「地域・町会との連携」とあるが何のことをさしているか分かりにくい。地域における外国人市民との交流、地域活動への参加促進等何をしたいのか入れた方が分かりやすい。	「基本方針Ⅱ」における施策の方向性2を「多文化共生の推進」としており、これに関連して、地域の日本語・学習支援教室開催や、地域の行事や地域機関（公民館・児童館・町会等）との協働事業への外国人住民の参加を促し、地域住民との交流を促進したいと考えており、計画の中に反映していきます。
18	ヘイトスピーチ解消法の制定と外国人差別が存在する実態、技能実習法の施行とそれにもかかわらず、労働基準法違反や技能実習性への人権侵害が後を絶たない実情についても、記述すべきです。	外国人の人権問題については、「金沢市人権教育・啓発行動計画」に基づき、庁内で連携して取り組みを進めていきたいと考えています。
19	「基本方針Ⅱ」に関する施策として、「外国籍や海外にルーツを持つ人々の人権保障」を掲げ、そうした人々への差別解消など市としての人権施策を明記して下さい。	
3. 「＜基本方針Ⅲ＞地域の国際化を担う人づくり」に関するご意見		
20	国際交流団体からは、日本人の国際理解の促進や人材育成の重要性を指摘する声がある。これらは永遠のテーマであり、「基本方針Ⅲ」の実施に力を入れてほしい。	「基本方針Ⅲ」に沿って、地域の国際化を担う人材を育成するため、青少年向けの国際理解講座等を開催するほか、学生等を対象とする人材育成セミナーなどを行うことで人材育成に取り組んでいきます。
21	「基本方針Ⅲ」に賛同する。特に、次世代を担う青少年の国際理解の推進に力を入れてほしい。	

22	ボランティアの育成にさらに力を入れることが重要である。また、育成したボランティアの活動の場を確保することも必要であり、やりがいを実感してもらう仕組みづくりを構築することにも留意してほしい。	「基本方針Ⅲ」に沿って、ボランティア育成に努めるとともに、「基本方針Ⅱ 日本人・外国人住民双方が暮らしやすい地域づくり」に向けて、多言語化、通訳、地域の日本語・学習支援教室などで活動してもらえるよう取り組んでいきます。
23	「基本方針Ⅲ」に関する施策として、「金沢市の職員採用における外国籍の人の受け入れ拡大」を明記すべきです。	公権力の行使又は公の意思の形成の参画にたずさわるものについては、日本国籍が必要であると考えています。採用に当たり、昇進、異動等に条件を付すことは、将来にわたり人事管理の面で大変難しい問題が発生するおそれがあり、慎重に対応する必要があると考えています。
4. その他のご意見		
24	金沢には多くの外国人の観光客が訪れているが、観光客誘致や受け入れ態勢に対しての施策がわかりにくい。必要ないのか。	観光客への対応は「金沢市持続可能な観光振興推進計画2021」に従い、庁内で連携して取り組みを進めていきたいと考えています。